

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】令和 4 年 11 月 16 日(2022.11.16)

【公開番号】特開 2020-151371(P2020-151371A)  
【公開日】令和 2 年 9 月 24 日(2020.9.24)  
【年通号数】公開・登録公報 2020-039  
【出願番号】特願 2019-55318(P2019-55318)  
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

A 6 3 F 5/04(2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 5/04 6 0 2 A

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 11 月 8 日(2022.11.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

20

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

振動することにより所定の演出を行う入力装置と、  
入力装置と係合する部品 1 と、前記部品 1 と係合する少なくとも 2 以上の他の部品を介して係合する部品 2 と、  
表示窓を有する扉と、  
リールテープと、前記リールテープが巻き付けられるリール基部と、前記リール基部を回転させるモータと、前記モータが固定されるモータ固定ベースと、を少なくとも含むリールと、  
前記リールが複数個並列に固定されているリールユニットと、  
複数の前記リールを前記リールユニットにそれぞれ固定するための複数の係止部品とを備え、  
前記部品 2 は、リールを停止させるための停止装置であり、  
前記入力装置が振動して所定の演出を行っている時、前記入力装置での振動の変位より、前記部品 2 での振動の変位の方が小さくなっており、  
複数の前記リールのうち所定のリールと、前記リールユニットと、が前記複数の係止部品のうち所定の係止部品によって前記所定のリールを構成する前記リールテープよりも上方で固定されており、  
前記所定の係止部品の長手方向の長さ m と、前記所定のリールを構成する前記リールテープの頂部から前記リールユニットの上部内壁までの垂直距離 n と、の関係が  $m > n$  となっており、  
前記所定の係止部品の長手方向の長さ m と、前記扉が施錠されている状況における前記所定のリールの最前部と前記表示窓との最短距離 b と、の関係が  $m < b$  となっていることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

50

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

振動することにより所定の演出を行う入力装置と、  
入力装置と係合する部品 1 と、前記部品 1 と係合する少なくとも 2 以上の他の部品を介して係合する部品 2 と、  
表示窓を有する扉と、  
リールテープと、前記リールテープが巻き付けられるリール基部と、前記リール基部を回転させるモータと、前記モータが固定されるモータ固定ベースと、を少なくとも含むリールと、  
前記リールが複数個並列に固定されているリールユニットと、  
複数の前記リールを前記リールユニットにそれぞれ固定するための複数の係止部品とを備え、  
前記部品 2 は、リールを停止させるための停止装置であり、  
前記入力装置が振動して所定の演出を行っている時、前記入力装置での振動の変位より、前記部品 2 での振動の変位の方が小さくなっており、  
複数の前記リールのうち所定のリールと、前記リールユニットと、が前記複数の係止部品のうち所定の係止部品によって前記所定のリールを構成する前記リールテープよりも上方で固定されており、  
前記所定の係止部品の長手方向の長さ  $m$  と、前記所定のリールを構成する前記リールテープの頂部から前記リールユニットの上部内壁までの垂直距離  $n$  と、の関係が  $m > n$  となっており、  
前記所定の係止部品の長手方向の長さ  $m$  と、前記扉が施錠されている状況における前記所定のリールの最前部と前記表示窓との最短距離  $b$  と、の関係が  $m < b$  となっていることを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50